

十年後には雇用回復も

復興庁 短期・中期の姿も示す

復興庁は四日、福島県や関係市町村からの要請を踏まえ、概ね十年後に再建した本格的な生活環境を構築する③住民が生活の再建に本格的に取り組める環境を構築する④このことをめざす。中期(五年後)には、①避難指示解除区域の拡大とともに広域交通インフラの復旧を進め、隣接区域と一体で復興を加速化する②産業振興・営農支援等を全面的に進め、安定した生活圏とコミュニティを形成する③とした。長期(十年後以降)には、①住民が健康で安心して定住する魅力ある地域を形成し、地域や人のつながりを大切にした地域社会の形成をめざす②新たな産業、研究・教育機能の集積を図り、事故で失われた雇用規模の回復に取り組む③ことを目標としており、長期を見通すに

ガラス溶融炉の運転条件を確認

六ヶ所再処理工場

日本原燃は四日、六ヶ所再処理工場の六ヶ所再処理高レベル廃液ガラス固化建屋のガラス溶融炉における事前確認試験結果を公表した。ガラス溶融炉B系列、A系列の運転条件を確認し、安定運転に係る運転条件の確認ができたこと評価しており、今後、ガラス固化試験に向けた改善を検討し、東海村の実規模モックアップ施設(KMOC)での運転を行い、安定運転に係る運転条件の見直しがあることを、B系列と同様に確認した。A系列では八月三十一日に、事前確認試験を終了し、模擬廃液でガラス固化体十本を製造している。

福島線の線量測定など紹介

放射線遮蔽国際会議 最新知見を発表

日本原子力学会が主催する「第十二回放射線遮蔽国際会議(ICRS-12)」が二日から七日まで、奈良市の奈良新公会堂で、米原子力学会・放射線防護遮蔽部会を兼ねて開催された(写真)。



三日の開会セッションでは、同会議運営委員長を務める中村尚司・東北大学名誉教授が挨拶し、新規導入を含め拡大する世界の原子力エネルギー利用のみならず医療・工業分野等での各種放射線利用に伴う安全と発展の基礎を支えるのが放射線

円滑な支援にNPOが活躍

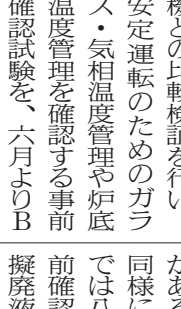
国立教育政策研究所

国立教育政策研究所は、このほど、東日本大震災後の復興に関わっているNPOやボランティアなどの特色ある活動の実践事例の調査を行い、その結果を報告書に取りまとめた。調査対象は、女川町教育委員会生涯学習課、プロジェクトFUKUS HIMA実行委員会、「福島の子」を守る会(通称・ふくしまキッズ実行委員会)などが挙げられている。

現場写真を公開

東京電力

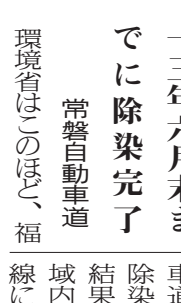
東京電力は、福島第一原子力発電所事故の現場写真など未公開写真を順次公開してきているが、十日、十一日に新たな写真を公開した。



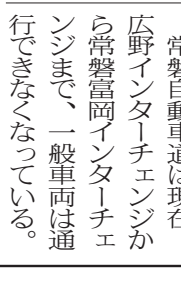
(写真左上) 3号機原子炉建屋の外観の現況(九月五日撮影) 屋根の壊れた鉄骨等は、まだ撤去されていないが、壁面は新たな材料で覆われた。



(写真左下) 2号機電源室内(集約日一年三月二十三日)。非常用直流電源も津波で浸水し、使用できなくなったことから、急遽、バッテリーを寄せ集め、原子炉機器などのデータ監視を行っている。



(写真右上) 4号機原子炉建屋のオペレーティングフロアにあった格納容器上蓋も地上に降ろされ(八月十五日撮影)、細かく切断され撤去される予定。



(写真右下) 4号機使用済み燃料プールに注水

除染関連技術他一堂に紹介

環境新聞主催

環境新聞社は九月二十四〜二十六日、東京都千代田区の科学技術館で、除染やそれに伴い発生する土壌や廃棄物の処理・処分などに関する国内外の技術・装置・機器・用具などを一堂で紹介する「環境放射能除染・廃棄物処理国際展(RADIEX.jp)」を開催する。

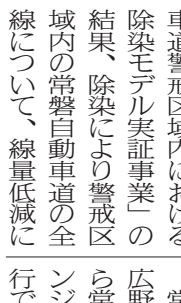
広島大学で「秋の大会」

原子力学会

日本原子力学会の「秋の大会」が十九日〜二十一日、広島大学・東広島キャンパス(東広島市鏡山)で開催される。



(写真右左) 4号機原子炉建屋のオペレーティングフロアにあった格納容器上蓋も地上に降ろされ(八月十五日撮影)、細かく切断され撤去される予定。



(写真右右) 4号機使用済み燃料プールに注水

位体の北太平洋における総量と分析(十九日午前十時〜十一時A会場)を青山道夫氏(気象庁)、理事セッションとして「今後の原子力政策と原子力学会の役割(同十一時〜十二時)」と題するセッションでは、「福島原発事故に対する学会の活動」田中知・前会長・十件の応募発表のほか、今回も一般市民にも無料開放する福島第一原子力発電所事故関連セッション、総合講演・報告、部会連絡セッションなどを開催する。

特別講演では、「福島第一原子力発電所から放出された放射性セシウム同位体の北太平洋における総量と分析(十九日午前十時〜十一時A会場)を青山道夫氏(気象庁)、理事セッションとして「今後の原子力政策と原子力学会の役割(同十一時〜十二時)」と題するセッションでは、「福島原発事故に対する学会の活動」田中知・前会長・十件の応募発表のほか、今回も一般市民にも無料開放する福島第一原子力発電所事故関連セッション、総合講演・報告、部会連絡セッションなどを開催する。

「将来の我が国の原子力安全を考える(同午後一時〜二時半)」では原子力

安全の基本的考え方策定の意義、責任とマネジメントシステム、人と環境の防護、事故の発生防止と影響緩和などの基本原則について議論する。

海外情報連絡セッションでは、「新大統領の意図、責任とマネジメントのフランスの原子力政策(同午後一時〜三時)」と題して、駐日大使館のクリストフ・グゼリ氏が講演する。

男女共同参画委員会セッション「サイエンス・カフェー」市民と専門家のコミュニケーション。ギャップを埋めるには「

調査活動の報告(二十日午前九時半〜十一時A会場)では、「福島事故をける放射線教育」の報告がある。

問い合わせは同学会事務局(電話03-3508-1261)まで。